

## はじめに

---

日本語教育センター主催の「日本語教育センターシンポジウム」は今回で8回目を迎えた。留学生の種別は学位取得を目的とするか否か、留学期間はどのくらいかなどによりいくつかに分かれるが、本学が大学の国際化の一環として留学生受け入れ増の方針を打ち出す中で、2024年にはどのような留学生をどのくらい迎えるかということについても整理され、それぞれ具体的な取り組みがなされている。

日本語教育センターとしては、それぞれの受け入れが本学にどのような豊かさをもたらすのか、またそのために日本語教育センターが取り組んでいくべきことは何かについて整理し、共有しながら、できることから着手したいと考えている。

このような考えにもとづき、本センターは「日本語教育センターシンポジウム」を様々な視点を得て議論を行う機会として、特別外国人学生をめぐる海外日本語教育機関との連携や、学部・研究科との連携、短期日本語プログラムの取り組みなどについて議論を重ねてきた。そして、今回はいよいよ正規学部留学生を中心テーマに据えて、「正規学部留学生受け入れの新時代―多様な留学生との学びは大学をどう変えるのか―」を企画した。

「新時代」と呼ぶにふさわしく、これまでとは違う方式、これからさらなる受け入れが期待される地域の日本留学への志向を学び、議論する機会にしたいと考え、中国、ロシア、インドネシア、ベトナムから中等教育の日本語教育に詳しい専門家にご登壇いただくことにした。

シンポジウムは2部構成とした。第1部は、まず池田伸子氏（国際化推進機構長）が、学生たちを取り巻く現在そして将来の環境と、大学で育成すべき人材像の観点から、正規学部留学生の受け入れ増の必要性を述べるとともに、正規学部留学生の受け入れのための新たな取り組みの方向性と今後の課題を示した。続いて、郭侃亮氏（中等日本語課程設置校工作研究会秘書長・上海市甘泉外国語中学教員）、コスチコワ・アンナ氏（モスクワ市1471番学校教頭）、ゼニ・クルニアワン氏（インドネシア全国高校日本語教師会会長・ジョゴロト国立高校）、タン・ティ・ミビン氏（ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学 日本言語文化学部 講師）が①当該地域の日本語教育事情（中等教育の日本語教育がどのくらい展開されているか、日本語教育の内容、高校卒業時の日本語レベル、日本語を履

修する学生が関心を持つ専門分野など)、②高校生の日本留学への志向、③高校生が卒業後、(日本語学校などを経ずに直接)日本の大学に入学することを検討する際に考えられる課題、大学の受け入れ体制への期待の3点について報告を行った。第2部では、菅沼隆氏(経済学部長)の教育部局の立場からのコメント、堀中春菜氏(入学センター課員)の関係部署の立場からのコメントを得た後に全体討議を行った。

当日は、学内の教職員をはじめ、学生、学外の方々と、60名強の参加があった。当日の参加者アンケートからは本テーマへの関心、本センターの取り組みに関心を寄せていただいたことがうかがえた。充実した講演内容とともに、活発に議論が交わされた全体討議の詳細もぜひお読みいただきたい。

最後に、本シンポジウムでお話くださった池上岳彦先生、池田伸子先生、郭侃亮先生、コスチコワ・アンナ先生、ゼニ・クルニアワン先生、テイ・ミビン先生、菅沼隆先生、堀中春菜氏、巖成男先生(登壇順)、そして当日ご参加くださった皆様に厚くお礼申し上げたい。また、本企画にご協力くださった国際交流基金日本語国際センター砂川裕一先生、今井理恵氏にも感謝申し上げる。企画・準備段階から本報告書をまとめるまでご尽力くださった日本語教育センターの皆様に関心から感謝の意を表したい。

日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授

**丸山 千歌**